

将来ビジョン会議議題は『吟剣詩舞が一般の方々と接する機会をいかに作り出すか』



令和2年1月16日(水)・於:笹川記念会館会議室

今年の政策委員会は日本吟剣詩舞振興会の沼崎会長によるご挨拶の中で、ビッグニュースの発表から始まりました。

「今年には東京オリンピックの年でもあり、日本を訪れる多くの外国人に吟剣詩舞をアピールできる、またとないチャンスの年です。そんな中、NHKエンタープライズを通じて8月19日に国立劇場大ホール舞台(1800人収容)で、外国人に向けて(日本の若い人も)吟剣詩舞を2時間ご披露できることになりましたことは大変喜ばしいことです」と挨拶。

この件に関しては後ほど事務局から報告があり、東京都と東京歴史文化財団、そしてアーツカウンシル東京(芸術文化の魅力の世界に

発信する創造活動を助成・支援する団体)が共催するもので、演舞の内容については既成の概念にとらわれず、外国人たちに分かりやすい内容を求められているとの報告がありました。

この報告に委員からは「またとない機会なので、是非とも数多くの外国人に素晴らしい吟剣詩舞をご披露できるよう導いてほしい」と期待感あふれる要望が出ました。

今年の政策委員会には、これまで全国7地区だった地区連協に新しく東北地区が発足したため、初参加として東北地区代表の長谷部紫昂氏(加わり8地区の代表)および外部有識者と沼崎富会長、広渡英治専務理事、大田直樹常任理事兼事務局長、そして本部職員が出席して開催されました。

委員会の進行役として、昨年に引き続き田久保雅己委員長が選任され、最初に事務局から昨年度の吟剣詩舞界の主なニュースを基に財団本部の事業等実施状況、本年度の主な行事予定などが報告されました。

報告に対しさまざまな意見交換

出席者リスト

〔政策委員〕

濱元邦雪 (北海道地区連絡協議会代表)

長谷部紫昂 (東北地区連絡協議会代表 新任)

横山精真 (東日本地区連絡協議会代表)

大伊達不朽 (中部地区連絡協議会代表)

中山岳襄 (近畿地区連絡協議会代表 新任)

菅源右光 (中国地区連絡協議会代表)

徳田寿風 (四国地区連絡協議会代表)

笠井栄俊 (九州地区連絡協議会代表 新任)

〔有識者/外部委員〕

岸ユキ (画家、各種政府関係、団体などの委員、役員)

片桐正之(欠席) (社)ACO専務理事

田久保雅己 (株)舵社(吟と舞)編集長

加藤雅章 (株式会社ポット)執行役員

久米信行(欠席) (久米繊維工業株式会社取締役会長 新任)

〔財団役員〕

沼崎富 (公財)日本吟剣詩舞振興会会長

広渡英治 (公財)日本吟剣詩舞振興会専務理事

大田直樹 (公財)日本吟剣詩舞振興会常任理事兼事務局長

(公財)日本吟剣詩舞振興会常任理事兼事務局長

がなされましたが、そのひとつに全国高校総合文化祭のことが話題に上りました。これまで主催県は持ち回りで開催されていますが、開催県によっては高校生で吟剣詩舞を趣味としている生徒が少なかったりするため、開催が決まってから数年かけて育成努力をしている現状について議論されました。その背景には、幼少のころから吟剣詩舞を体験、育成することが重要であることが顕出されました。

特に吟詠では漢詩や和歌そのものを義務教育期に学ぶ必要性を文科省などに訴えていく必要もあるのではないかと。そのためには他人任せではなく、全国の吟詠家たちが自ら、積極的に「どのようになれば一般の人たちに吟詠の魅力を伝え、普及していけばいいか」を、流派派内でも考え、さらには県総連、全国各地区を通じて考え、全国一丸となつて一般の人たちも巻き込んで取り組むべきではないか、という意見も出ました。

最後に全国8地区で開催された将来ビジョン会議の内容について報告があり、本年度(令和2年度)の将来ビジョン会議の議題について協議されました。

目標は「全国の愛好者一人一人が行動に結びつく、具体的な仕組みや働きかけを考える」ということで、普及振興のための誘い込みのキーワードは①健康増進(吟詠は腹式呼吸で腹筋を使い、声を出すことから健康を増進)、②歴史を学ぶ(漢詩や和歌などを学び、精神修養。礼節を重んじる人格形成にもつながる)、③コミュニティづくり(吟剣詩舞は老若男女で仲間づくりができる)。この三つのキーワードを基に会員獲得や情報発信をすることにより、吟剣詩舞の普及振興につなげようということです。

そのために、将来ビジョン会議の

本年度の議題は『吟剣詩舞が一般の方々と接する機会をいかに作り出すか』に決定いたしました。

この議題に合わせて各地区で開催される将来ビジョン会議で検討する内容としては

- 1 各地域における吟剣詩舞を始めた人のきっかけや動機について
- 2 初心者体験教室や鑑賞のためのイベント開催など、地域の試みについて
- 3 インターネットを利用した情報発信や各地区・各県総連の広報委員の活用
- 4 吟剣詩舞流派・教室の連絡先の開示について吟剣詩舞版「タウンページ」の制作を目的とする

会議の中で話題にもあがりましたが、各地の県総連や流派派内の中から積極的に、吟剣詩舞の普及振興策を検討していただき、それぞれの地域でできること、財団本部が行うことをより明確にし、それぞれが実践活動に励むスタートの年を目指そうとするものです。各地区におかれましてはご協力のほど、よろしくお願ひします。